

# 東京都スポーツ少年団競技別交流大会

## 【 軟式野球実施要項 】

2018年6月7日 実施

### 1. 期 日

平成30年6月24日(日)	競技開始	駒沢軟式球場A面	9時00分～
平成30年7月1日(日)	競技開始	駒沢軟式球場A面	9時00分～
	三位表彰式	駒沢軟式球場内	準決勝戦終了ごと
	閉会式	駒沢軟式球場A面	15時30分(予定)
平成30年7月8日(日)	予備日	駒沢軟式球場	

### 2. 会 場

駒沢オリンピック公園総合運動場 軟式球場及び(硬式野球場)

住所 : 〒154-0013 世田谷区駒沢公園1-1 TEL 03-3421-6199

### 3. 競技規則及び方法

- (1) 「2018年公認野球規則」、全日本軟式野球連盟の競技者必携「競技運営に関する連盟の取り決め事項」及び「競技に関する連盟特別規則」を適用する。
- (2) ボールは、全日本軟式野球連盟公認の「ナガセケンコーボールC号」とする。
- (3) バットは、全日本軟式野球連盟公認の「JSBB」マーク入りのものに限る。
- (4) スパイクは、金属製金具を禁止する。
- (5) 捕手の防具は、全日本軟式野球連盟公認のマスク(安全带スロートガード付)・レガース・ヘルメット・プロテクター・及びファールカップを着用すること。シートノック時の控え捕手も義務づける。
- (6) 打者・次打者・走者・ベースコーチは全日本軟式野球連盟公認の「JSBB」マーク入りの両耳、または片耳のフラップヘルメットを必ず着用すること。

### 4. 競技運営に関する取り決め事項

- (1) ベンチに入れる人員は、試合前の練習、試合中ともに下記のとおりとする。
  - ① 引率責任者は、私服(運動の出来る服装)とし、**登録指導者**とする。
  - ② 代表指導者(監督)は、団員(選手)と同一ユニフォームで背番号30番とし、**登録有資格指導者(認定員または認定育成員)**に限る。
  - ③ 指導者(コーチ)は、団員(選手)と同一ユニフォーム2名以内で背番号29・28番とし、**登録有資格指導者(認定員または認定育成員)**に限る。
  - ④ スコアラーは、私服(運動の出来る服装、チーム帽子は着用)とし、**登録指導者**とする。
  - ⑤ 団員(選手)は、9名以上20名以内で背番号0番から27番までとし、代表団員(主将)は、背番号10番とする。なお、団員登録をしている者に限る。
  - ⑥ 健康管理スタッフは、私服(運動の出来る服装)とし、**事前に大会本部へ申請を行った場合のみ、指導者を除く団員保護者2名以内のベンチ入りを認める。**
- ※ ①④は、指導者登録章を右袖、②③は、指導者登録章を右袖、有資格者章を左脇腹(安全ピン止め可) ⑤は、団員登録章を右袖に縫い付けること。

- (2) ベンチは組合せ番号の若い方を1塁側とする。
  - (3) メンバー表の提出及び攻守の決定は、**第1試合のチームは試合開始30分前に大会本部に提出し、両チームの監督・主将が来てジャンケンで行う。第2試合目以降のチームは、前の試合開始40分経過後もしくは4回終了時に大会本部にて上記同様に行なう。**
  - (5) 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。
  - (6) 試合開始時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
  - (7) 次の試合の投手のピッチング練習は、**メンバー表を提出し攻守を決めた後**ブルペンでの投球練習はできるが、進行中の試合チームのピッチング練習を妨げてはならない。なお、**先発バッテリーのみの入場**とし、捕手はマスク・レガース・ヘルメット・プロテクターを着用すること。特に投球練習時はマスクの着用を義務とする。なお、**監督、コーチ、その他の者の入場は認めない。**ただし、前試合終了後は、その限りではない。
  - (8) **試合前のシートノックは5分間**とする。ノッカーは代表指導者（監督）か指導者（コーチ）でなければならない。なお、大会運営上行われない場合がある。
  - (9) ベンチ内での携帯電話、携帯マイクの使用を禁止する。ただし、代表指導者（監督）1名並びに指導者（コーチ）2名の3者の内1名に限りメガホン1個のみ使用を認める。
  - (10) 試合のスピード化に関する事項
    - ① 試合の進行によっては、タイムを制限することもある。
    - ② 投手の準備投球数は、**初回7球、交替時5球、その他は3球以内**とする。なお、捕手はマスクの着用を義務とする。
    - ③ 攻守交代は駆け足で行うこと。投手に限り歩いても差し支えない。また、監督のマウンドへの行き帰りは小走りで行うこと。
    - ④ 投手は必ず投手板について捕手のサインを見ること。
    - ⑤ 次打者は、必ず次打者席に入り低い姿勢で待つこと。なお、**投手が投球姿勢に入ったら素振をしてはならない。**
    - ⑥ 打者はみだりにバッターボックスを外さないこと。サインもボックス内でみること。
    - ⑦ **内野手間のボール回しは初回のみ**とする。
    - ⑧ 守備が終わり、最後のボール保持者は、必ずマウンドにボールを置いてベンチに戻ることに。
    - ⑨ ランナーから帰ったとき等、捕手の防具付けはベンチ前で行い、手伝ってくれる選手を含め速やかに行うこと。
  - (11) その他
    - ① ファウルボールの処理については、1塁側は、1塁側ベンチの選手、3塁側は、3塁側ベンチの選手、バックネット側については、攻撃側の選手が行い、速やかに球審にボールを戻すこと。
    - ② 本大会出場予定チームが、各地区の大会参加等で日程が重複する場合は、各ブロックにて他のチームを推薦すること。ただし、代表者会議以後の変更は認めない。
    - ③ 本大会出場チームが途中棄権をした場合、そのチーム及び所属する地区からの次年度大会の出場を停止する場合がある。
    - ④ 小雨の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な場合は試合を行うことがある。
    - ③ 雨天の際の連絡等について
      - ア. 当日決められた時間以降に団代表1名が下記に問い合わせる。
      - イ. 当日の1試合目のチームに、会場へ向かうことを要請することがある。
- ※ 問い合わせ先 野球部会長 森 勝史 090-3697-4091

## 5. 雨天による大会運営

### (1) 大会初日

- ① 代表者会議で決定した、試合時間・組合せ日程で行う。ただし、雨天等で時間を繰り下げる場合がある。
- ② 第1試合終了後、第2試合が不可能な場合は、第2試合不成立あるいは中止であれば全日本軟式野球「競技者必携」による特別継続試合、あるいは延期試合を2日目に行う。

### (2) 大会2日目

- ① 初日が終日、試合不可能だった場合は、代表者会議で決定した、試合時間・組合せ日程で行う。ただし、雨天等で時間を繰り下げる場合がある。
- ② 初日に特別継続試合、あるいは延期試合があった場合は、当初の試合時間を繰り下げて、変則ダブルヘッターで行う。

### (3) 予備日

- ① 初日および2日目が、終日試合不可能だった場合は、大会本部において協議し試合時間、組合せ日程を変更しダブルヘッターで実施する場合がある。  
なお、順位が決定できない場合は、全日本軟式野球連盟「競技者必携」による抽選を行い、東京都代表を決定する。  
ただし、当該チームの同意を得た場合は、別日程で、決勝戦を行う場合がある。
- ② 全日程（予備日含む）が試合不可能で順位が決定できない場合は、全日本軟式野球連盟「競技者必携」による抽選を行い、東京都代表を決定する。

## 6. 競技に関する特別規則

- (1) 本大会の試合イニングは原則として7回とする。
- (2) 試合の成立は4回終了以降とする。
- (3) **試合イニングは7回を原則とするが、90分の試合制限時間を採用して行う。90分を経過した後は新しいイニングに入らず、そのイニングをもって勝敗を決定する。**
- (4) 本大会において、**7回を試合時間90分内で同点となった場合は、次のイニング「特別延長戦」に入る。**特別延長戦は、継続打順とし前回の最終打者を1塁走者、2塁、3塁の走者は順次前の打者として、**無死満塁の状態**にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。
- (5) **特別延長戦は最大2イニング**とする。特別延長戦の1イニング目で決着がつかず、かつ、試合時間90分以内に限り、2イニング目を行う。なお、1イニング目が終了した時点で試合時間の90分が経過し勝敗が決しななかつた場合、および2イニングを行っても勝敗を決しない場合は『全日本軟式野球連盟競技者必携』記載の抽選、審判員および試合終了時に出場していた両チームのメンバーが、終了あいさつの状態に整列し、抽選用紙に○印・×印、各9枚記入したものを封筒に入れ、先攻チームより1枚ずつ交互に選び、○印の多いチームを抽選勝ちとする。
- (6) 5回終了前に降雨、日没等で試合続行が困難になった場合は、継続試合・大会中止の判断は本部の指示によるものとする。
  - ① 継続試合とは、その日の最終試合が続行できず、翌日の第1試合に先立って試合を継続すること。
  - ② 大会中止とは、予定している日程で大会が行えなくなった場合のこと。
- (7) 得点のゴールドゲームは、**4回終了時10点差、5回終了以降7点差**とする。

- (8) 抗議のできる者は代表指導者(監督)または、当該プレイヤーとする。
- (9) 代表指導者(監督)が、投手のところへ行く回数の制限
  - ① 代表指導者(監督)が1イニングに同一投手のところへ2度行くか、行ったと見なされる場合、投手は自動的に交代しなければならない。交代した投手が、他の守備位置につくことは許されるが、**同一イニングにふたたび投手には戻れない。**
  - ② **捕手または内野手が、1試合に投手のところに行ける回数を3度以内**とする。ただし、代表指導者(監督)と共に行った場合は除く。特別延長戦となった場合は、2イニングに1度行くことができる。
- (10) 試合のスピードアップを図るため、団員(選手)が負傷し治療が長引く場合は、相手の了解を得て臨時代走(コーティージーランナー)を認める。この場合は試合に出ている9人の中から投手を除いた最も打順の遠い団員(選手)を認める。

## 7. 補 則

- (1) メンバーの変更はメンバー表提出時まで認める。その後の変更は認めない。
- (2) 同一チームの代表指導者、指導者、団員(選手)の服装は次のものでなくてはならない。
  - ① **ユニフォーム、帽子、アンダーシャツ、ストッキングは、同一色とし、ベルトは、メーカー名を問わず同色、スパイクはメーカー名を問わず同色のものとする。**
  - ② **エクストラロングスタイルのパンツ(ズボン)の着用は禁止**する。ただし、ストッキングが見える場合は着用を認める。
- (3) 上記(2)①②に違反している代表指導者、指導者、団員のベンチ入りは認めない。
- (4) **1投手1日の投球制限は、7イニング**とする。
- (5) 団員のスポーツ障害、健康管理に充分注意すること。
- (6) グランドルールは、担当審判員が各試合前に説明する。
- (7) 試合に勝ったチームは、試合後グラウンド整備を行うこと。
- (8) 大会開催中、保健看護師が本部席に常駐しております。団員(選手)、指導者、保護者方に負傷、急病が発生した場合は、個々で対応せずに速やかに本部席まで報告をお願いします。

## 8. そ の 他

本実施要項に定められていない事項が生じた場合は、大会本部並びに野球部会で協議の上、決定する。

- (1) 本実施要項3以降は2015年6月8日 施行
- (2) 要項4.(1)⑤ 団員(選手)**10名以上は9名以上**とし、2017年6月13日変更、実施とする。
- (3) 要項4.(1)⑥ 健康管理スタッフのベンチ入りで、**指導者を除く団員保護者**を追記する。
- (4) 要項7.(8) **保険看護師常駐の件**を追記。